

かと思われる。興味をはじめ、関連的な検討は今後に期したい。

表2 好ましい性格特徴

項目	優件数%	普件数%
判断力推理力に富む	85.7	4.8
明朗で快活	76.2	33.3
物事を知りたがり質問する	76.2	33.3
理解が早く答も早い	76.2	14.2
常識が発達している	76.2	9.5
元気で活動的	71.4	47.6
正直ですなお	71.4	61.9
研究意欲あり熱心	66.7	19.0
記憶力にとむ	66.7	14.2
ことばが豊富ではっきり話す	61.9	23.8
自分の経験や興味をよく話す	61.9	23.8
向上心にもえている	61.9	23.8

表3 好ましくない性格特徴

項目	優件数%	普件数%
忍耐に乏しく困難にくじけやすい	23.8	33.3
他人をしのごうとしたがらない	23.8	61.9
ぐずで非能率的	23.8	28.6
人を笑わせるようなことは余り話さない	19.0	14.3
困難なことやいやなことは後まわしにする	19.0	19.0
言われなければ仕事や勉強をしない	19.0	19.0
物事に興味をもたず進んで調べたり質問しない	14.3	28.1
気力にかけ疲労しやすい	14.3	19.0
余り自分の経験や興味を話さない	14.3	33.3
物事を進んでやらない	14.3	28.6
余り元気なく不活発	14.3	14.3
研究心足らず熱心でない	14.2	33.3

表4 好ましい性格特徴と好ましくない性格特徴

特徴	児童	優秀児(二人)	普通児(三人)
好ましい	三五〇(六七)	六五	一五(六九)
好ましくない	一五(六七)	三〇	二四

註(一)内はひとり当たり件数。太字は特に著しい特徴

集団遊びについての一考察

名古屋市立保育短期大学 清 御 治 代

研究目的 「集団遊び」とは保育園においてはその保育内容の中に明記されており、幼稚園においては「仲よし遊び」「ゲーム」などの名称と呼ばれている。その適切な指導の指針を見出すための基礎資料として、現在どの程度に遊ばれているか、どのような遊びが好まれているか、指導上の問題点は何か、などにつき実態調査を試みた。

対象園 名古屋市内 保育園60 幼稚園64

調査方法 質問紙法および教師との面接による。

調査期間 昭和34年2月15日—2月30日

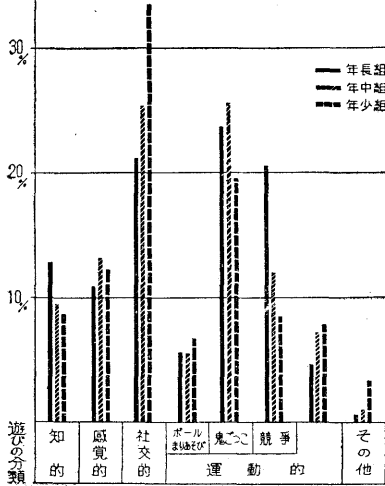
調査結果

項目	幼稚園			保育園			全体%		
	優件数%	普件数%	劣件数%	優件数%	普件数%	劣件数%	優件数%	普件数%	劣件数%
調査項目の取り入れられているか	とりいれている	98.4	100	99.2					
	とりいれていない	1.6	0	0.8					
実施回数	週に1,2回	51.6	38.3	44.9					
	週に3,4回	34.4	41.6	38.0					
	週に5,6回	10.9	18.3	14.6					
実施時間	午前	35.9	33.3	34.6					
	午後	50.0	50.0	50.0					
	自由	14.1	16.7	15.4					
人員構成	いつも全員	7.8	18.3						
	たいてい全員	14.1	65.0						
	たいてい組別	53.1	13.3						
	いつも組別	25.0	3.2						
選択方法	いつも先生が	0	5.0	2.5					
	たいてい先生が	59.3	66.6	62.9					
	たいてい子どもが	39.0	25.0	32.0					
	いつも子どもが	1.7	3.4	2.6					

- ・無記入の%は省略
- ・* 検定の結果、人員構成のみ1%の信頼水準で有意の差を認む。

結論 (1) 集団遊びが全体的によくなされていることが明らかなら

よくする遊び、好まれる遊び



遊びの種類を追求したい。

つづき代表的な遊びの個々について、身体的、心理的発達的面より子どもの興味を分析し、具体的な指導方法を追求したい。

集団遊びについての問題点	幼稚園 %	保育園 %
広い場所がほしい	31.4	28.7
自由につかえる場所がほしい	7.5	7.1
能力差(年齢差)があり困る	9.3	14.3
人数が多すぎて困る	3.7	8.6
消極的で参加しない子の指導	9.3	25.7
リーダーばかりになりたがる子の指導	7.5	4.3
協力がなくルールを守らぬ子の指導	5.5	4.4
遊びが常にかたよる	3.7	2.9
勝負にとらわれる	1.9	1.4
遊びの種類をたくさん知りたい	9.3	9.7

り、それ故その指導方法の研究の必要性を痛感する。

(四) 個々の遊びに対する興味は年齢により差がみられるから、その与え方、人員構成など考慮する必要がある。また先生の与える遊びと子どもの好む遊びとは高度の相関を示すから、教師は適当な遊びを豊富に用意したいものである。

(五) 今回は一般的傾向を把握するための実態調査にとどまったが、ひき

幼児のグループ形成に関する

一 考察

平安女学院短期大学 片岡 靈 恵

用語の定義について グループ形成という用語を、主として、教師がある意図をもって幼児の生活を指導する一方法として考えた。

研究の目的、研究の方法、対象、期間、教師の与えたグループ構成

プリント参照

自然発生的グループの構成 自然発生的ということばについて

結論的考察 教師が、幼児のグループ形成を助けることの可否についてに重点をおいて、考察の結果をのべる。すなわち、第一に、幼児たち相互の選択と結びつきは、教師の観察を超えたものがしばしばみられる。殊に、二年三年と在園する子どもたちは、自然に、かしこい選択をし、グループ生活を楽しむ能力を備えている。そして、第二には、教師のかしこい配慮によるグループ形成は、お互いをよく知らない時期には適宜におこなわれるべきであろう。

評価 自由活動場面におけるグループ、すなわち、遊びのグループの観察が出来なかつたため、比較が出来なかつたこと、ソシオメトリックテストが不完全であったこと。

幼児の集団組成からみた

男女差の問題

広島・やわらぎ学園 樋口三紀子